

鳳賞は梶原 将一くん 作品は「博愛なる君へ」懸賞論文



入賞者と審査の先生方

学生部主催の「懸賞論文と文芸作品コンクール」の表彰式が11月26日、生田キャンパスで行われ、文芸部門の鳳賞は、梶原将一くん(文4)が受賞した(論文部門は鳳賞の該当者なし)

今年度は論文部門に14編、文芸部門に29編、合計43編の応募があり、表彰式では池本正純学生部長から入賞者19人に学長名の賞状、賞金、育友会からの記念品が贈られた。

論文部門審査を担当した加藤浩平経済学部教授は「残念ながら鳳賞の該当者はなかったが、全体的に作品は粒ぞろ

いで、特に優秀者の3人はあと一步のところであった。ユニークな視点、感性の鋭さを感じさせるテーマが多かった」と論評。

柘植光彦文学部教授は文芸部門に関して「入賞作を見ると、物語性の強い作品とそうでない作品とに分かれた。鳳賞の梶原作品『親愛なる君へ』は後者の代表格。淡々とした展開の中で『読ませる』作品となったのは、卓越した表現力とテンポの良さがあったからだ」と称え、他の入賞作品についても一点一点、評した。

梶原将一くんの話

初めて書いた小説です。散歩が好きで日々、歩く中で出会う人々や出来事について小説にし、1カ月ほどで書き上げました。

現在、畑有三ゼミで樋口一葉についての卒論に取り組んでいますが、今回『書く』ことによって大変勉強になり、いままで見えてこなかったものが見えてきたと思います。
[12月15日/ニュース専修9面]

ジンバブエ大学のノンゴ助教授が講演 国際交流特別講演会



第107回国際交流特別講演会が11月5日、生田キャンパスで開かれた。学生105人が、ジンバブエ大学歴史学部のジョセフィン・ノンゴ・シンバネガヴィ助教授の英語による講演を聞いた＝写真。

テーマは「20世紀南部アフリカにおけるジェンダーと人的移動」。南アフリカ、ジンバブエ、マラウイ、ザンビアなど南部アフリカ地域における現地の人々の国を越えた労働力移動(出稼ぎ)が、女性についても増えたことで起きたさまざまな問題や、その影響による文化的交流

の意義などを考察する興味深い内容となった。

ジンバブエから一時帰国した吉國恒雄商学部教授(本年4月から長期在外研究員)が通訳し、室井義雄経済学部教授も参加。講演後、学生から英語での質問もあった。

[12月15日/ニュース専修9面]